

## 資料編

---

- 1 奈良市の概況
- 2 市民、事業所、中学生アンケート調査の結果（抜粋）
- 3 「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」策定経過
- 4 奈良市環境審議会委員名簿
- 5 奈良市環境基本計画推進会議、環境教育推進会議参加者
- 6 用語解説



## 資-1 奈良市の概況

### (1) 位置及び地勢

本市は、奈良県の北端に位置し、日本全国からみて、ほぼ中央に位置しています。

この位置的好条件をはじめ、その他の自然的社会的環境により古くから政治・文化の中心として発展してきました。

西は生駒市、南は天理市、大和郡山市、桜井市、東は宇陀市、山辺郡山添村、三重県伊賀市、北は、京都府木津川市、相楽郡2町1村に隣接しており、面積は、276.94km<sup>2</sup>あります。



### (2) 気象

(表1-1) 気象

	気温(℃)			年降水量 (mm)	年間日照時間 (時間)
	平均	最高	最低		
平成23年	15.0	36.1	-4.2	1,473.0	1,847.8
平成24年	14.7	36.3	-5.3	1,597.5	1,755.9
平成25年	15.3	37.1	-4.1	1,505.5	2,004.2
平成26年	14.9	36.8	-3.7	1,320.5	1,854.0
平成27年	15.5	36.9	-3.1	1512.0	1738.7

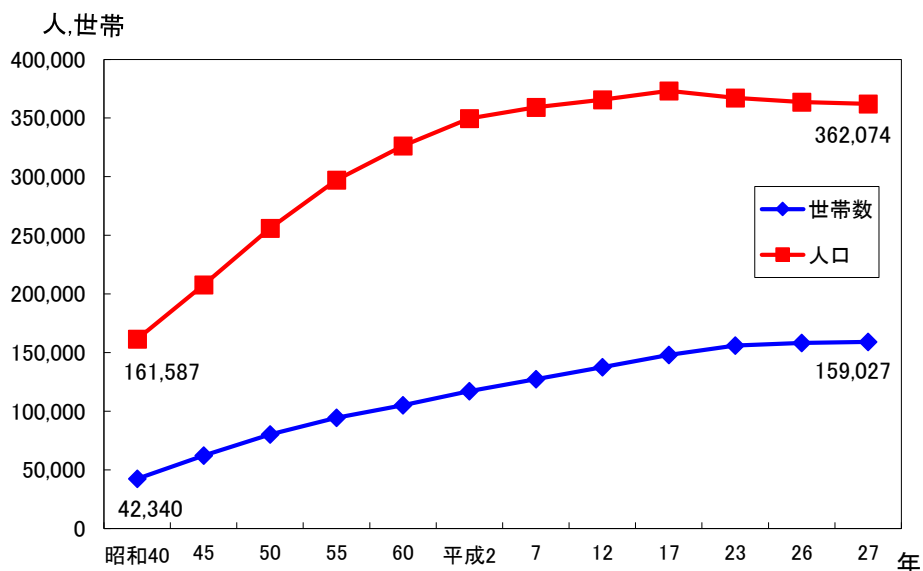
資料：奈良地方気象台（奈良地方気象台の観測値）

### (3) 人口・世帯数

本市の人口は、平成12年の37.5万人（※旧月ヶ瀬村、旧都祁村を含む。）をピークに一貫して減少傾向が続いており平成27年現在36.2万人となっています。

また、世帯数は、増加傾向で推移しており、平成27年現在、159,027世帯となっています。

(図1-1) 奈良市の人口・世帯数の推移



資料：市民課

### (4) 都市計画用途地域

(表1-2) 奈良市における都市計画用途地域の割合

区分	面積 (ha)	比率 (%)
総数	4,857.4	100.0
第一種低層住居専用地域	2,306.9	47.5
第二種低層住居専用地域	18.7	0.4
第一種中高層住居専用地域	544.8	11.2
第二種中高層住居専用地域	49.1	1.0
第一種住居地域	1,148.4	23.6
第二種住居地域	157.7	3.2
準住居地域	32.3	0.7
近隣商業地域	85.4	1.8
商業地域	304.9	6.3
準工業地域	142.4	2.9
工業地域	66.8	1.4
工業専用地域	—	—

告示日：平成25年3月15日

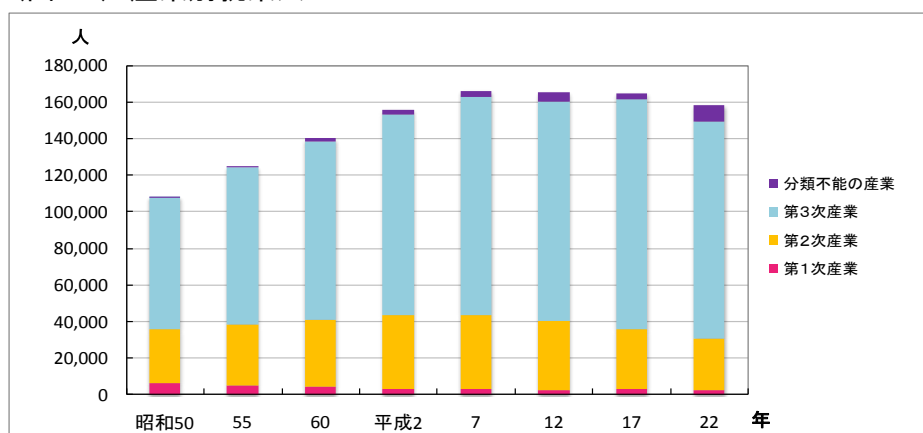
資料：都市計画課

## (5) 産 業

(表1-3) 産業大分類別就業人口（平成22年国勢調査）

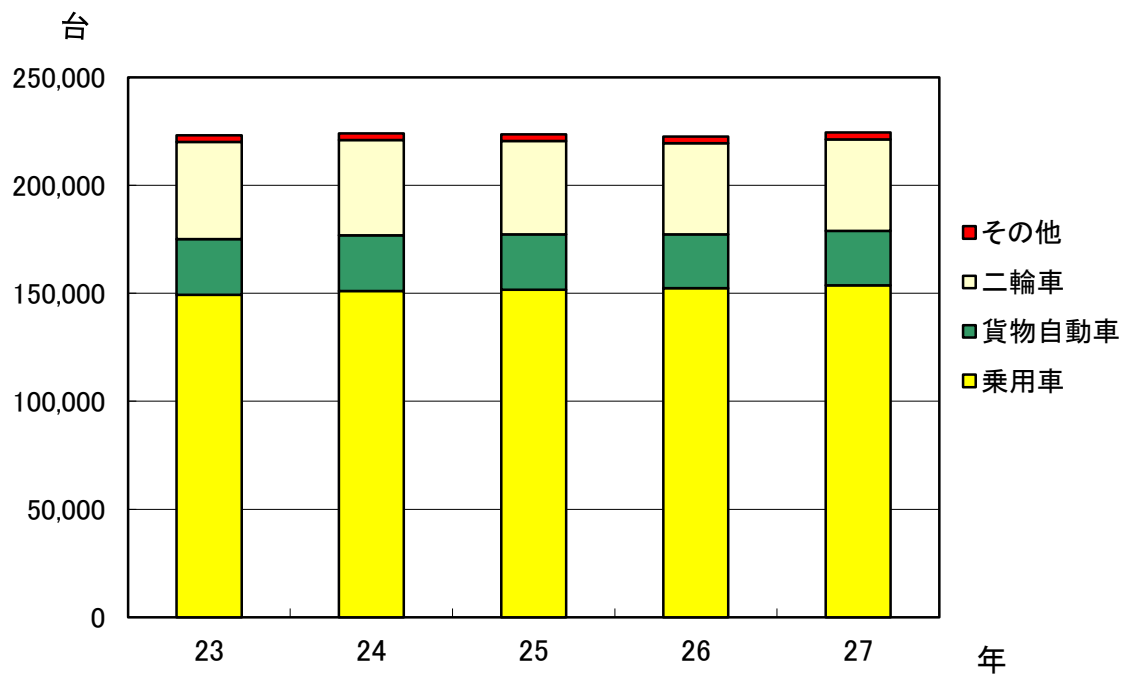
産 業	就業人口(人)	比率 (%)
農 林 業	2, 2 4 0	1. 4
漁 業	4	—
第 1 次 産 業 計	2, 2 4 4	1. 4
鉱 業、採 石 業	6	—
建 設 業	8, 6 9 4	5. 5
製 造 業	1 9, 8 1 5	1 2. 5
第 2 次 産 業 計	2 8, 5 1 5	1 8. 0
電気・ガス・熱供給・水道業	8 6 3	0. 5
情 報 通 信 業	4, 1 8 2	2. 6
運 輸 業、郵 便 業	6, 1 6 6	3. 9
卸 売 業・小 売 業	2 8, 8 5 7	1 8. 2
金 融・保 険 業	5, 9 3 8	3. 7
不 動 産 業、物 品 賃 貸 業	4, 3 7 1	2. 8
学 術 研 究、専 門・技 術 サ ー ビ ス 業	6, 8 3 8	4. 3
宿 泊 業、飲 食 サ ー ビ ス 業	1 0, 0 4 9	6. 3
生 活 関 連 サ ー ビ ス 業、娯 楽 業	6, 3 5 3	4. 0
教 育、学 習 支 援 業	1 1, 0 2 9	7. 0
医 療、福 祉	1 7, 9 6 2	1 1. 3
複 合 サ ー ビ ス 業	7 4 5	0. 5
サ ー ビ ス 業	9, 1 4 6	5. 8
公 務	6, 1 9 2	3. 9
第 3 次 産 業 計	1 1 8, 6 9 1	7 4. 9
分 類 不 可 産 業	8, 9 9 4	5. 7
計	1 5 8, 4 4 4	1 0 0. 0

(図1-2) 産業別就業人口



## (6) 交 通

(図1-3) 自動車等登録台数の推移



資料：統計なら 平成27年版（近畿運輸局奈良運輸支局、市民税課）

## 資-2 市民、事業所、中学生アンケート調査の結果（抜粋）

「環境基本計画（改訂版）」の中間見直しにあたって、平成28年度に、市民（18歳以上の男女1,500人を無作為抽出）、事業所（奈良市内に所在する事業所500社を無作為抽出）、中学生（奈良市内の各ゾーンに位置する市立中学校を通して中学生200人を抽出）を対象にアンケート調査を実施しました。

計画改訂時（平成22年度）に実施したアンケート調査の時に比べて、意識がどのように変化しているのか結果の比較をしています。

### (1) 回収状況

調査対象者	配布数	有効回収数	有効回収率
市民	1,500	739*	49.2%
事業所	500	206	41.2%
中学生	200	140	70.0%

※Webアンケートの回答数6件を含みます。

#### ●調査方法

- 郵送配布・郵送回収
- 市内の中学校5校に調査票の配布を依頼し、後日、記入後の調査票を回収（中学生アンケート）
- 奈良市ホームページでのWebアンケート（市民アンケートのみ）

#### ●調査期間

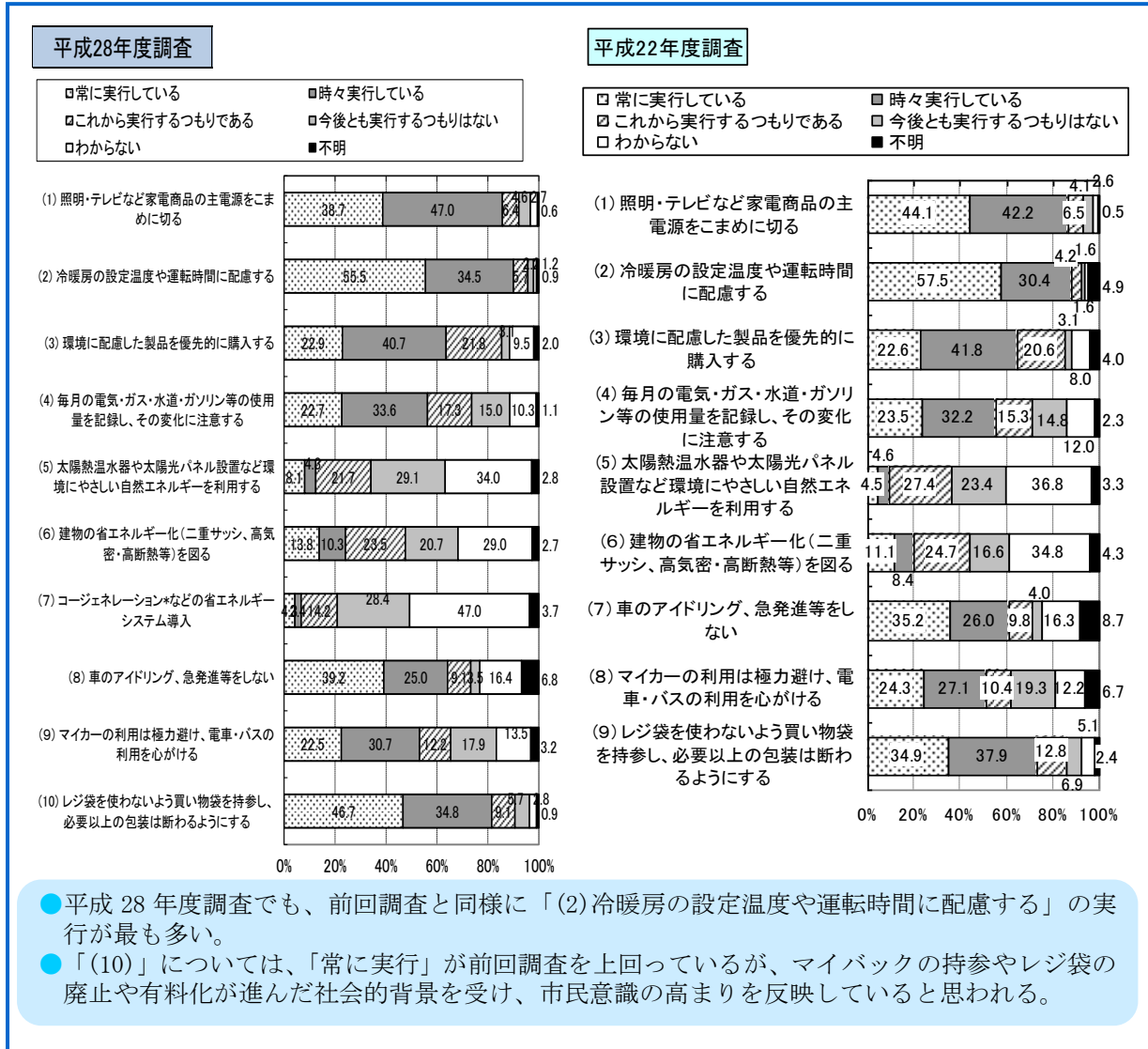
- 郵送調査 平成28年4月28日～平成28年5月20日
- Webアンケート 平成28年4月28日～平成28年5月20日
- 中学生アンケート 平成28年5月2日～平成28年5月31日

## (2) 市民アンケート調査の結果

### ①市民の環境保全に対する取組について

#### ■今回調査（平成28年度実施）と前回調査（平成22年度実施）との比較

#### 省エネルギー・二酸化炭素排出削減

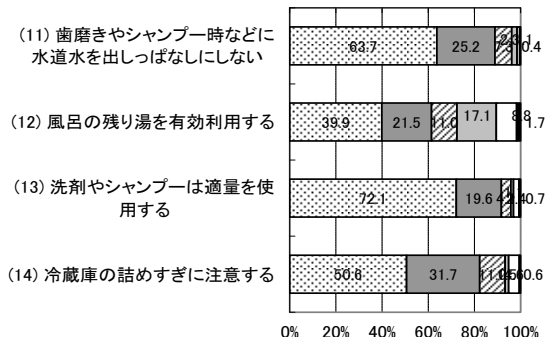




## 台所・風呂等での生活行動

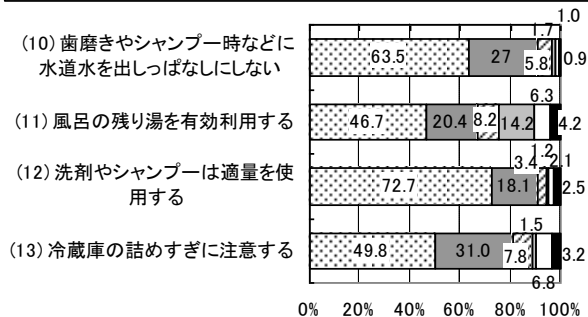
### 平成28年度調査

常に実行している       時々実行している  
 これから実行するつもりである       今後とも実行するつもりはない  
 わからない       不明



### 平成22年度調査

常に実行している       時々実行している  
 これから実行するつもりである       今後とも実行するつもりはない  
 わからない       不明

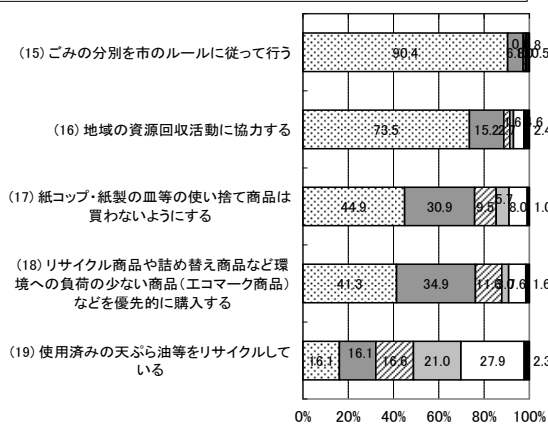


● 「常に実行」の割合が最も高いのは「(13) 洗剤やシャンプーは適量を使用する」の72.1%、次いで「(11) 歯磨きやシャンプー時などに水道水を出しっぱなしにしない」の63.7%となっている。

## ごみの減量・リサイクル等

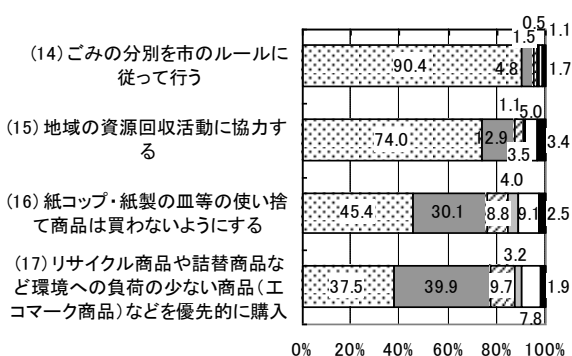
### 平成28年度調査

常に実行している       時々実行している  
 これから実行するつもりである       今後とも実行するつもりはない  
 わからない       不明



### 平成22年度調査

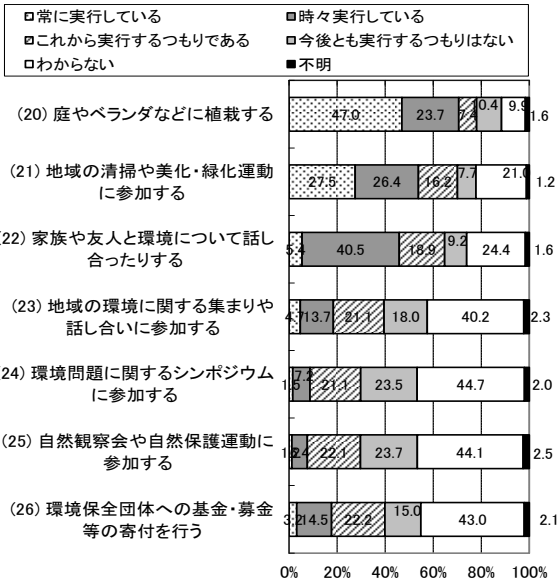
常に実行している       時々実行している  
 これから実行するつもりである       今後とも実行するつもりはない  
 わからない       不明



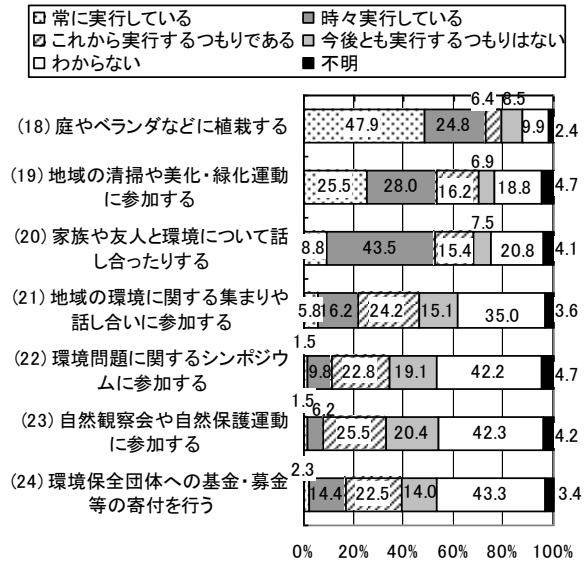
● 「常に実行」の割合が最も高いのは「(15) ごみの分別を市のルールに従って行う」の90.4%、次いで「(16) 地域の資源回収活動に協力する」の73.5%となっている。

## 環境保全のための積極的な行動

平成28年度調査



平成22年度調査



- 「常に実行」の割合が最も高いのは、「(20)庭やベランダなどに植栽する」の47.0%、次いで「(21)地域の清掃や美化・緑化運動に参加する」の27.5%である。
- 環境保全のための積極的な行動については、「(20)」を除いて「常に実行」の割合は低い。
- 特に、「(24)環境問題に関するシンポジウムに参加する」「(25)自然観察会や自然保護運動に参加する」は、前回調査に比べて「常に実行+時々実行」の割合が低下している。

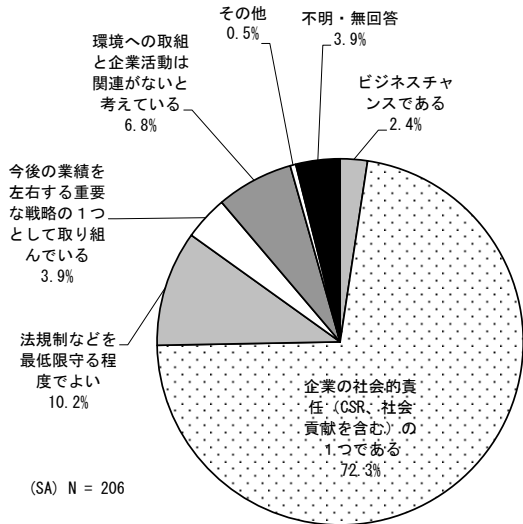
### (3) 事業所アンケート調査の結果

#### ①事業所の環境問題に対する認識や取組状況について

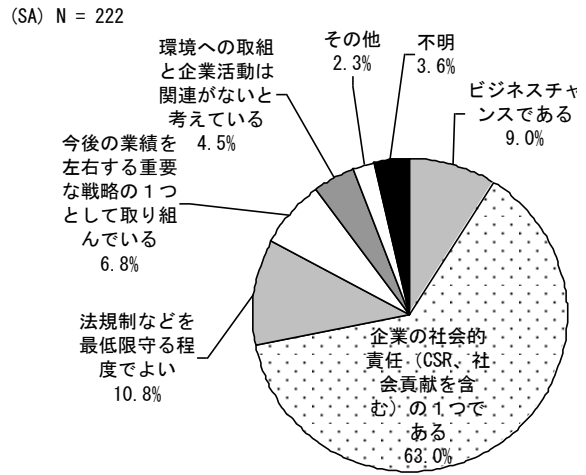
#### ■今回調査（平成28年度実施）と前回調査（平成22年度実施）との比較

##### 企業の環境への取組と企業活動のあり方

###### 平成28年度調査

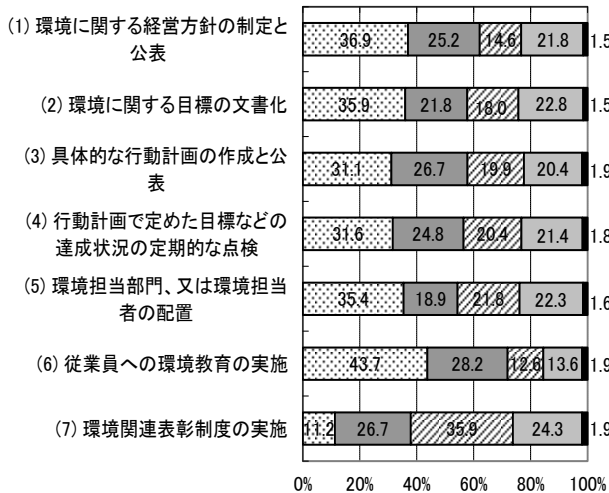
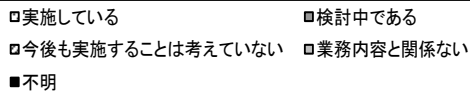


###### 平成22年度調査

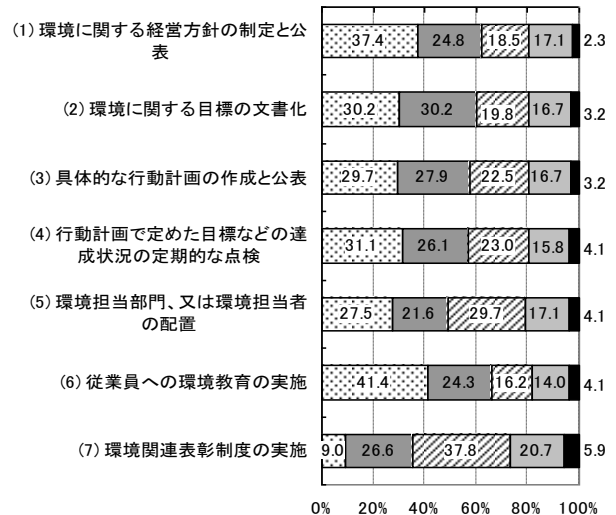
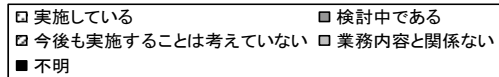


##### 環境に関する取組状況

###### 平成28年度調査



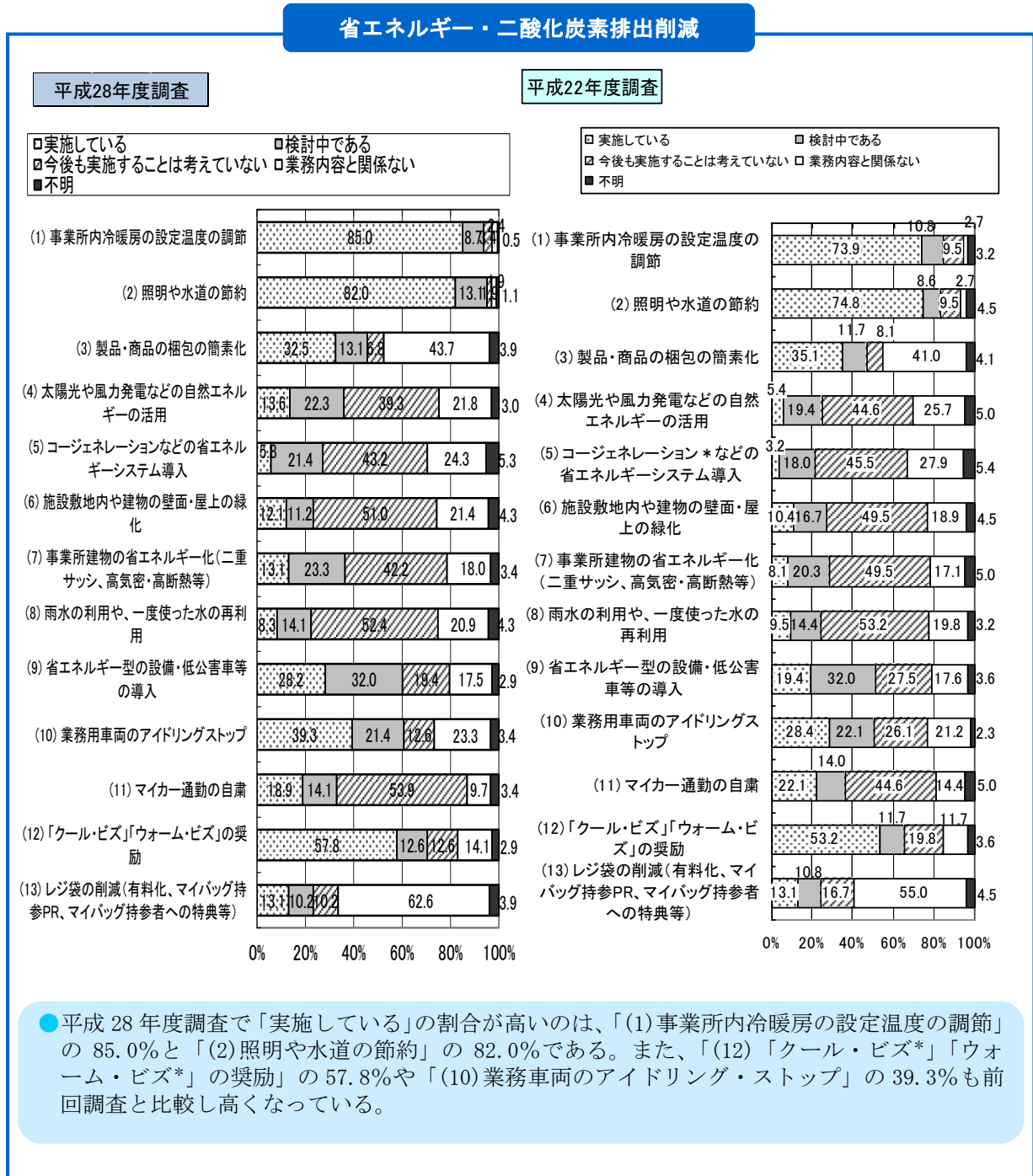
###### 平成22年度調査



- 企業の環境への取組と企業活動のあり方については「企業の社会的責任（CSR、社会貢献を含む）の1つである」と回答した企業が最も多い。
- 実施している内容では、多い順に「従業員への環境教育の実施」「環境に関する経営方針の制定と公表」「環境に関する目標の文書化」となっている。

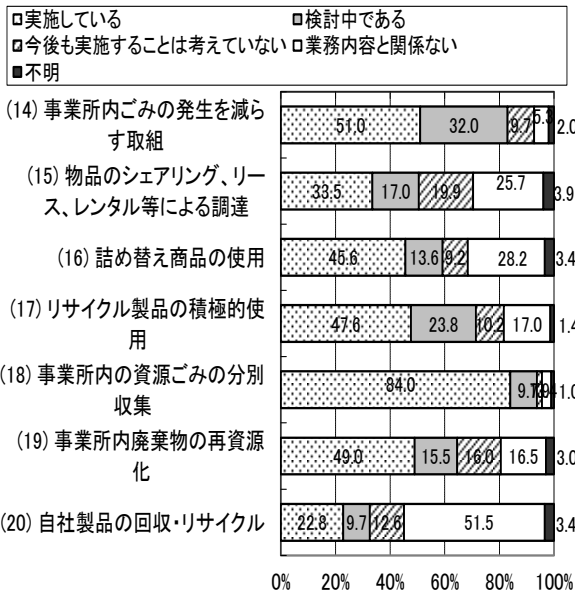
## ②事業所の環境保全に対する取組について

### ■今回調査（平成 28 年度実施）と前回調査（平成 22 年度実施）との比較

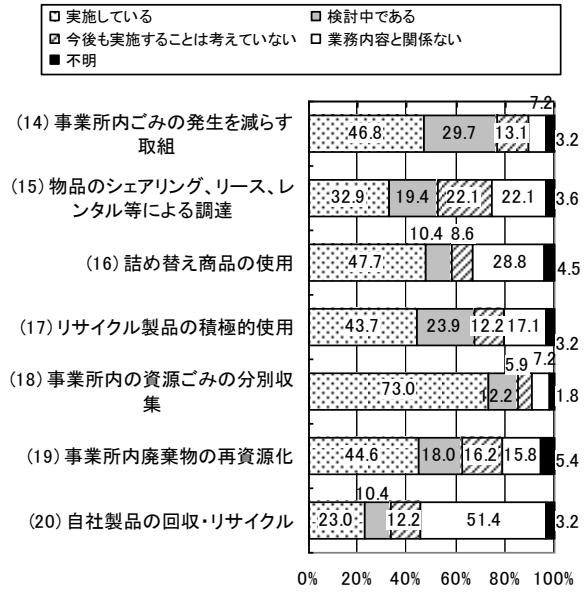


## ごみの減量・リサイクル

平成28年度調査



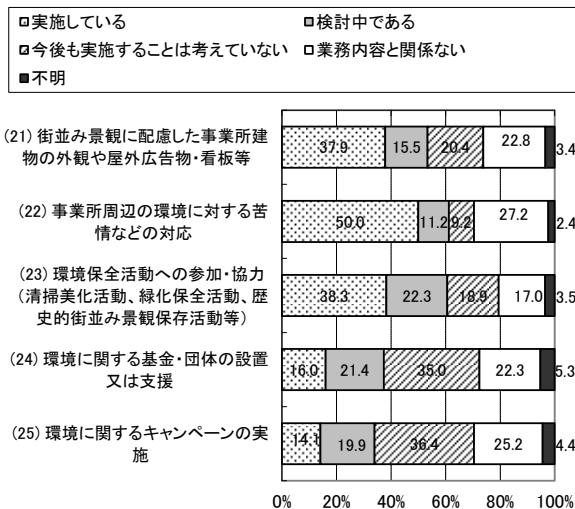
平成22年度調査



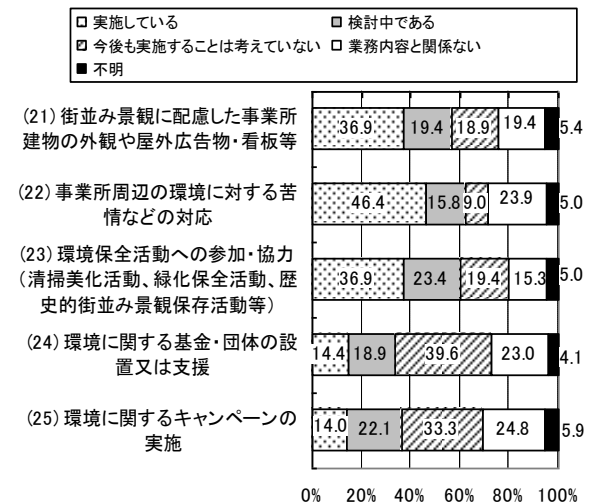
● 「実施している」の割合が最も高いのは、「(18) 事業所内の資源ごみの分別収集」の84.0%となっている。

## 環境保全のための行動

平成28年度調査



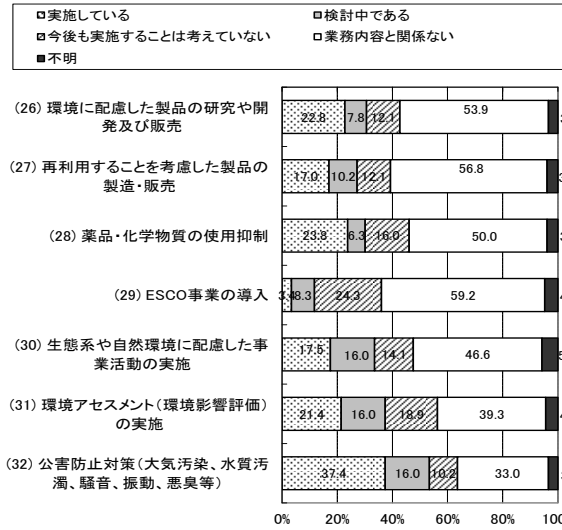
平成22年度調査



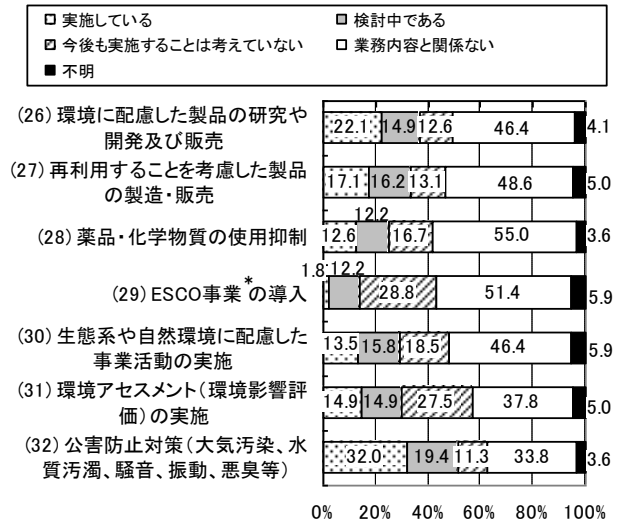
● 「実施している」の割合が最も高いのは、「(22) 事業所周辺の環境に対する苦情などの対応」の50.0%となっている。

## 環境に配慮した事業活動

### 平成28年度調査



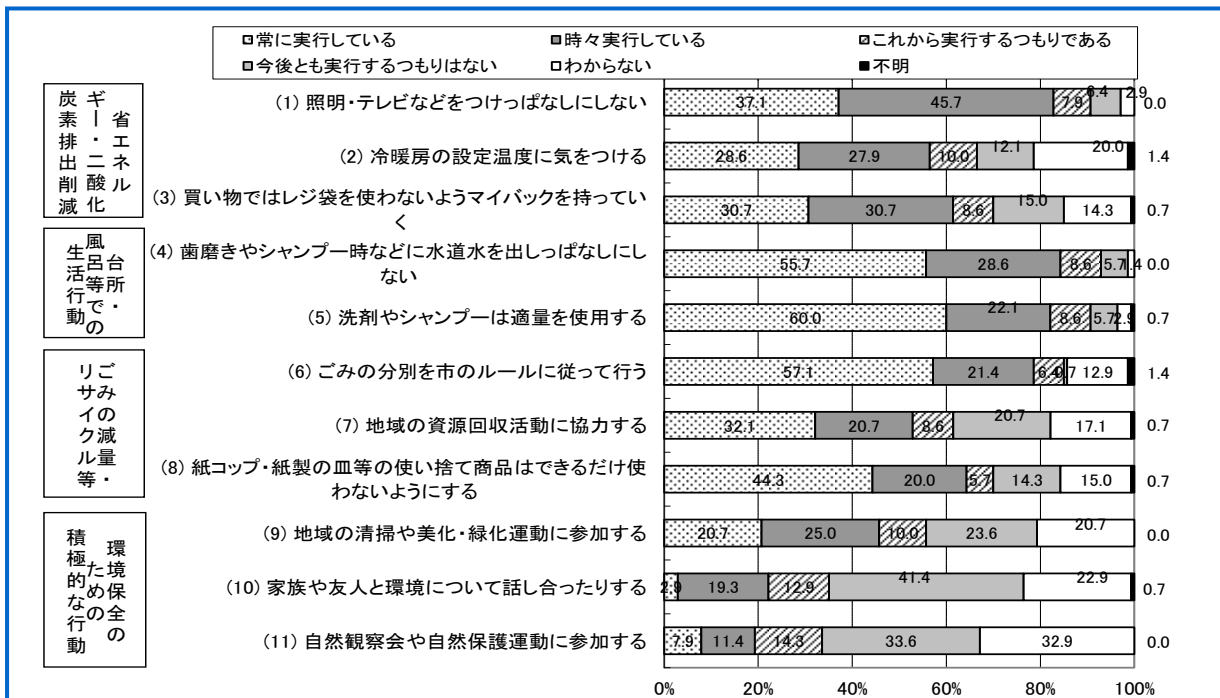
### 平成22年度調査



● 「実施している+検討中である」の割合が最も高いのは、「(32) 公害防止対策(大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭等)」の 53.4%となっている。その他の項目は、「実施している」「検討中である」とも低い。

## (4) 中学生アンケート調査の結果

### ① 中学生の環境保全に対する取組について



● 実施している内容では、多い順に「(5) 洗剤やシャンプーは適量を使用する」「(6) ごみの分別を市のルールに従って行う」「(4) 歯磨きやシャンプー時などに水道水を出しっぱなしにしない」となっている。

### 資-3 「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」策定経過

年度	月 日	会議の種別	内 容
平成 27 年度	2月1日（月）	環境教育推進会議	○環境基本計画（改訂版）中間見直しの概要、スケジュールについて
	2月4日（木）	環境基本計画 推進会議	○環境基本計画（改訂版）中間見直しの概要、スケジュールについて ○アンケート調査票の設問の検討
	2月22日（月）	平成27年度 第2回環境審議会	○環境基本計画（改訂版）中間見直しの概要、スケジュールについて ○アンケート調査票の設問の検討
平成 28 年度	4月28日（木） ～5月20日（金）	—	○市民、事業所、中学生アンケートの実施
	7月27日（水）	環境基本計画 推進会議	○環境基本計画（改訂版）前半年総括について ○アンケート調査結果の報告
	8月31日（水）	環境基本計画 推進会議	○具体的施策の見直しについて
	9月29日（木）	環境基本計画 推進会議	○「環境基本計画（改訂版）中間見直し素案」の検討
	10月26日（水）	環境教育推進会議	○アンケート調査結果の報告 ○具体的施策の見直しについて
	11月14日（月）	平成28年度 第1回環境審議会	○アンケート調査結果の報告 ○「環境基本計画（改訂版）中間見直し素案」について
	12月5日（月） ～12月28日（水）	—	○パブリックコメントの実施
	2月10日（金）	環境基本計画 推進会議	○「環境基本計画（改訂版）中間見直し案」について
	2月24日（金）	平成28年度 第2回環境審議会	○「環境基本計画（改訂版）中間見直し案」について

## 資-4 奈良市環境審議会委員名簿

区分	氏名	所属・団体名	備考
1号委員	松村 佳子	奈良教育大学名誉教授	
	前迫 ゆり	大阪産業大学教授	
	中澤 隆	奈良女子大学教授	
	野末 勝宏	弁護士	
	中川 大	京都大学大学院教授	
	西山 要一	奈良大学名誉教授	
	遊津 隆義	奈良県地球温暖化防止活動推進センター長	
	小松原 尚	奈良県立大学教授	
	福岡 雅子	大阪工業大学准教授	
	細谷 和海	近畿大学教授	
2号委員	古川 俊男	奈良商工会議所代表	
	堀川 雅嗣	奈良青年会議所代表	
3号委員	赤井 正一	奈良市自治連合会代表	平成28年5月まで
	静間 章二	奈良市自治連合会代表	平成28年6月から
	廣岡 博子	奈良市地域婦人団体連絡協議会代表	
	島 浩二	公募市民	
	岸田 かおる	公募市民	
	稲野 玲子	公募市民	

(敬称略)

1号委員：学識経験のある者

2号委員：産業関係団体の代表者

3号委員：一般市民の代表



## 資-5 奈良市環境基本計画推進会議、環境教育推進会議参加者

懇談会名	氏名	所属・団体名	備考
環境基本計画推進会議	小松原 尚	奈良市環境審議会	
	遊津 隆義	奈良市環境審議会	
	井上 雅由	NPO 法人奈良ストップ温暖化の会副理事長	
	岡野 恵子	NPO 法人奈良ストップ温暖化の会理事長	
	清水 順子	NPO 法人サークルおてんとさん代表	
	山下 明	奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合副組合長	
	西岡 善生	市民生活協同組合ならコープ	
	齋藤 晃	大阪ガス株式会社	平成 28 年 3 月 31 日まで
	和氣 宏昇	大阪ガス株式会社	平成 28 年 4 月 1 日から
環境教育推進会議	松村 佳子	奈良市環境審議会	
	細谷 和海	奈良市環境審議会	
	岡本 胤継	NPO 法人環境ネットワークなら理事長	
	北浦 由香	NPO 法人奈良ストップ温暖化の会副理事長	
	黒飛 啓志	NPO 法人宙塾理事長	
	三宅 基之	NPO 法人奈良地域の学び推進機構副理事長	
	山本 素世	奈良県シェアリングネイチャー協会理事長	

(敬称略)

## 資-6 用語解説

### 50 音順

#### あ

##### アイドリング・ストップ (idling stop)

大気汚染防止を目的として、駐停車中の自動車のエンジンを止めること。

##### アダプトプログラム

市民と行政が協働で進めるまち美化プログラムのこと。「アダプト」とは「養子縁組する」という意味。企業や地域住民などが道路や公園など一定の公共の場所の里親となり、定期的・継続的に清掃活動を行い、行政がこれを支援する仕組み。アダプトプログラムの原型は、米国の「アダプト・ア・ハイウェイ・プログラム」。

#### い

##### 異常気象

数十年間に1回程度の気象現象、あるいは人が一生の間にまれにしか経験しない現象を指し、大雨や強風などの短時間の現象から数か月も続く干ばつなどまで含まれる。社会一般には、気象災害を起こすなど社会的な影響が大きい現象を「異常気象」と呼ぶこともある。

気象庁では、原則的に、ある地点・ある時季において30年に1回以下の現象を「異常」と定義している。

##### 一般廃棄物

家庭から生じた廃棄物と、事業活動に伴って生じた廃棄物のうち産業廃棄物以外のもの（事務所・商店等から生じた紙ごみ、飲食店から生じた生ごみなど）をいう。

#### え

##### エコツーリズム (ecotourism)

地域ぐるみで自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指していく仕組みのこと。

##### エコドライブ (eco drive)

無駄な燃料消費や騒音などの少ない、環境に配慮した適正な運転マナーのこと。タイヤの空気圧の適正化、円滑な発進、停車時のエンジン停止（アイドリング・ストップ）などがある。

##### エコロジカル・フットプリント (ecological footprint)

人間の生活や事業などがどれだけ自然環境に依存しているかを、自然資源の消費量を土地面積で表すことでわかりやすく伝える指標のこと。自然生態（エコロジカル）を踏みつけた足跡（フットプリント）を意味する。

#### お

##### 温室効果ガス

大気中の二酸化炭素やメタンなどのガスは太陽からの熱を地球に封じ込め、地表を暖める働きがあり、これらのガスを温室効果ガスという。

京都議定書における排出量削減対象となっているのは、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>)、メタン (CH<sub>4</sub>)、一酸化二窒素 (N<sub>2</sub>O)、ハイドロフルオロカーボン類 (HFCs)、パーフルオロカーボン類 (PFCs)、六フッ化硫黄 (SF<sub>6</sub>) の6種類である。

#### か

##### カーボン・フットプリント

商品やサービスのライフサイクル全体における温室効果ガス排出量をCO<sub>2</sub>量に換算して算定し、マークを使って分かりやすく表示すること。

##### 外来種

もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のこと。

##### 環境影響評価 (環境アセスメント)

事業者が大規模な開発事業を行う前に、あらかじめその事業が環境に与える影響について調査・予測・評価を行い、その結果を公表し、市民や行政の意見を参考にして、事業を環境保全上より望ましいものとしていく仕組みのこと。

事業段階より前（上位）の政策段階・計画段階における環境アセスメントを「戦略的環境影響評価（戦略的環境アセスメント）」という。

## 環境家計簿

毎日の生活の中で環境に関係する出来事や行動を家計簿のように記録し、家庭でどんな環境負荷が発生しているかを家計の収支計算のように行うもの。とくに決まった形式はないが、毎月使用する電気、ガス、水道、ガソリン、燃えるごみなどの量に二酸化炭素を出す係数を掛けて、その家庭でのCO<sub>2</sub>排出量を計算する形式のものが多い。

## 環境マネジメントシステム

企業や自治体などが、法令等の規制基準を遵守するだけでなく、自主的、積極的に環境保全を進めるため、組織内部に設ける仕組みのことをいう。具体的には、①環境保全に関する方針、目標、計画等を定め（Plan）、②計画等を実行し（Do）、③その実行状況を点検して（Check）、④計画等を見直し、再び取組を進める（Action）という一連の手続（PDCA サイクル）を構築して、運用していく。

## 間伐

森林において、木の育ちをよくするため、成長の悪い木や曲がった木などを切って間を空けること。

## かん養

地表の水（降水や河川水）が地中に浸透し、地下水となること。雨水等を吸収し、水源の枯渇や洪水を緩和することを「水源かん養」という。

# き

## 京都議定書

地球温暖化を防止するため、二酸化炭素など6種類の温室効果ガス（GHG）の排出削減を法的に義務付けるよう求めた国際協定。1997年に京都市で開かれた「気候変動枠組み条約第3回締約国会議」（COP3）で採択された。先進国の温室効果ガス排出量について法的拘束力のある数値目標が設定されており、2008年から2012年の5年間に、1990年（一部ガスは1995年を選択できる）比で日本は6%の削減が義務付けられている。

# <

## クール・ビズ（cool biz）

夏場の冷房時の室温を28℃に設定し、衣服を軽装化（ノーネクタイ、スーツの上着を脱ぐ、半そでシャツ等）する環境省の地球温暖化防止キャンペーンのこと。同キャンペーンで、冬場の暖房時の室温を20℃に設定し、重ね着、膝掛け等で暖を取ることを**ウォーム・ビズ（warm biz）**という。

## グリーンサポート制度

公園を快適・安全に利用できるようにするために、一年を通して公園の美化・維持管理・点検等の自主的活動を行う地域の団体に報奨金を交付する制度。

# こ

## 光化学オキシダント（Ox）

大気中の窒素酸化物や炭化水素などが、紫外線により光化学的反応を起こし、生成される酸化性物質群をいう。中でも主要な物質がオゾンとパーオキシアセチルナイトレート（PAN；R-CO<sub>3</sub>NO<sub>2</sub>）であり、いずれも人及び植物に有害である。

## 高効率機器

エネルギー効率を向上させ、CO<sub>2</sub>の排出量及びランニングコストを削減した設備機器のこと。高効率ヒートポンプ型空調システム、CO<sub>2</sub>冷媒ヒートポンプ給湯器（エコキュート）、ガスエンジン給湯器（エコウィル）、潜熱回収型給湯器（エコジョーズ）、LED照明などがある。

## コージェネレーション（cogeneration）

発電と同時に発生した排熱も利用して、冷暖房や給湯等の熱需要に利用するエネルギー供給システムで、総合熱効率の向上を図るもの。家庭用としては燃料電池（エネファーム）やガスエンジン給湯器（エコウィル）がある。

## 合流式下水道

汚水と雨水を分離することなく同一の管で排除する方式で、古くから下水道事業を行っている都市で採用されているが、最近では、汚水と雨水

を別々の管に集めて排除する分流式が主流となっている。分流式下水道は、汚水だけが処理施設へ流入し、雨水は河川に排出される。

## ごみゼロ

「ごみを出さない生活様式」や「ごみが出にくい事業活動」が定着し、ごみの発生・排出が極力抑制され、排出された不用物は最大限資源として有効利用されること。

## コミュニティバス (community bus)

高齢者、身障者などにも利用しやすい公共交通として、低運賃、短いバス停間隔、小回りの効く小型車両、わかりやすいダイヤなどを特徴とする地域密着型のバスシステム。平成7年の武蔵野市による「ムーバス」の運行開始を契機として、各地の市町村などによる導入が相次いでいる。

## さ

### 再生可能エネルギー

非化石エネルギー源であって永続的に用いることができるものの総称。①太陽光や風力、水力、地熱、バイオマス等の実用化されているもの、②潮力や波力、海洋温度差など研究開発段階のものがある。

### 在来種

海や陸地、山脈などによって分布を制限され、長い年月をかけて地域の環境に適応し、進化してきた生物。外来種に対して用いられる。

### 里山

奥山自然地域と都市地域の間位置し、様々な人間の働きかけを通じて環境が形成されてきた地域であり、集落を取り巻く二次林と、それらと混在する農地、ため池、草原等で構成される地域概念。

### 3R

ごみを減らし循環型社会を構築していくためのキーワードで、Reduce (発生抑制)、Reuse (再使用)、Recycle (再生利用) の頭文字をとったもの。廃棄物の削減は、この順番で重要とされる。

## 産業廃棄物

事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類など20種類をさす。産業廃棄物については、事業者自らの責任で、環境汚染が生じないように適正に処理すべきことが義務付けられている。

## し

### 自然エネルギー

太陽エネルギー、地熱、水力、風力、波力、潮力等自然現象から得られるエネルギーのことで、化石燃料や核エネルギーと異なり、廃棄物による環境汚染の心配の無いクリーンエネルギーとされている。

### 循環型社会

廃棄物の発生を抑え、使用済みの製品がリユース・リサイクル・熱回収等により、適正かつ循環的に利用され、その他については適正処分によって天然資源の消費を抑え、環境負荷をできるだけ少なくする社会のこと。

### 省CO<sub>2</sub>

二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) の排出を抑制・削減すること。

## せ

### 生物相

一定の場所に生育・生息している全生物種を指し、どのような種がそこにいるかを示す概念。植物相 (フロラ)、動物相 (ファウナ)、微生物相 (マイクロビオタ) のすべてを含む。

### 生物多様性

現在地球上には300万種を超える生物が生息・生育していると推測されている。この膨大な種は30億年を超える生物の歴史を経て多様化してきたものであり、複雑な相互関係で結ばれつつ、多様な環境下で生物社会をつくりあげている。このように、生物が多くの種に分化し、その類似の程度が一様でない現象を生物の多様性という。生物多様性国家戦略では、「生物が、遺伝子レベル、種レベル及び生態系レベルで変異性を保ちながら存在していること」と定義している。

## ゼロエミッション (zero emission)

あらゆる廃棄物を原材料などとして有効活用することにより、廃棄物を一切出さない資源循環型の社会システム。1994年に国連大学が提唱した考え方。狭義には、生産活動から出る廃棄物のうち最終処分(埋め立て処分)する量をゼロにすること。

## そ

### 創エネ

太陽電池、燃料電池、風力発電など、自然エネルギーを利用することにより、CO<sub>2</sub>を排出せず、環境にやさしいエネルギーを創出すること。

## た

### 多自然型工法

治水、利水技術の上に土地固有の多様な生物が生息する河川環境を創出する方法を取り入れ、自然に近い河川づくりを行っていく工法。近自然工法ともいう。

## ち

### 地域コーディネーター

学校教育への市民参画を進め、開かれた学校づくりを進めていくための担い手として、学校教育と地域の人材等の社会的資源を結びつけるパイプ役をいう。「コーディネーター」とは、ものごとを調整する役を担う人のこと。

### 地産地消

地域で生産された農林水産物等をその地域で消費すること又はその活動のこと。近年、食品に対する安全・安心志向の高まりや食料輸送等による環境負荷の軽減(フードマイレージ\*の低減)などの面で注目されている。

### 地球温暖化

大気中の二酸化炭素などの温室効果ガスの濃度が高くなることを主な原因として、地球表面の平均気温(地上気温と海面水温)が上昇する現象。この結果、海水の膨張や極氷の融解に伴う海面上昇や、気候メカニズムの変化に伴う異常気象の頻

発などが生じるおそれがあり、人間を始め広く生態系に大きな影響を及ぼすことが懸念される。

### 中核市

規模が比較的大きく一定の事務処理能力を持つ都市について、その事務権限を強化し、できる限り住民の身近で事務を行うことができるようにするために設けられた制度で、現在の指定要件は法定人口が20万人以上であること。平成29年1月1日現在、48市が指定されている。

## て

### 低公害車

大気汚染物質の排出や騒音の発生が少なく従来の自動車よりも環境への負荷が少ない自動車の総称。電気自動車、メタノール自動車、天然ガス自動車、ハイブリッド自動車等が開発されている。

### 低炭素社会

化石エネルギーの消費等に伴う温室効果ガスの排出量を大幅に削減し、世界全体の排出量を自然界の吸収量と同等レベルにするとともに、生活の豊かさが実感できる社会のこと。

### デマンドバス

バス利用者のデマンド(需要や乗りたいというニーズ)に合わせて、停留所に呼び寄せたり停留所以外でも乗り降りができる仕組みのバス。

## な

### ナラ枯れ

カシノナガキクイムシという小さな甲虫により、ナラ・カシ類が集団枯損を起こす現象。近年、各地で被害が急速に拡大している。

## に

### 二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>)

炭素化合物の燃焼や生物の呼吸により生成される無色無臭の気体。炭酸ガスとも呼ばれる。現在の大气中には約0.03%含まれているが、化石燃料の大量消費等エネルギー起源による二酸化炭素の大量排出により、ここ数十年間の間に大気中

濃度が急激に高まっており、数ある環境問題の中でも最も根深く、かつ、解決が困難な地球温暖化問題の原因となっている。

## は

### パークアンドライド (park and ride)

都心部等での道路交通混雑を避けるために、都市の郊外部において自動車を駐車し、鉄道・バス等の公共交通機関へ乗り換える手法。バスに乗り換える場合は**パークアンドバスライド**、自転車に乗り換える場合は**パークアンドサイクルライド**ともいう。

### バイオマス (biomass)

再生可能な生物由来の有機性のエネルギー又は資源をいう。

### 廃棄物

廃棄物の処理及び清掃に関する法律では、「ごみ、粗大ごみ、燃え殻、汚泥、ふん尿、廃油、廃酸、廃アルカリ、動物の死体その他の汚物又は不要物であって、固形状又は液状のもの（放射性物質及びこれによって汚染された物を除く。）をいう。」と定義されている。また、産業廃棄物と一般廃棄物に分けられる。

### パブリックコメント (public comment)

行政機関が新しい政策を打ち出したり、制度を変更しようというときに、その内容を事前に公表し、国民からの意見を募集して、その政策や制度づくりに反映させる仕組み。

### パリ協定

2015年11月30日から12月13日にわたり、フランスのパリにおいて国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)が開催され、2020年以降の地球温暖化対策の法的枠組みを定めた「パリ協定」が採択され、平成28年11月に発効された。「パリ協定」は、産業革命前からの気温上昇を2.0度より十分低く保つとともに、1.5度未満に抑える努力を追求することを目的としており、CO<sub>2</sub>等削減目標を国連に報告することや、目標を達成するための国内対策の実施などを義務づけている。ただし、削減目標の達成自体は義務づけられていない。

## ひ

### ビオトープ

ドイツ語で、地域の野生生物の生息空間のこと。その土地在来の昆虫や小動物、植物の多くの種類が生存できる空間のこと。

### 光害

照明器具から漏れた光や必要のない範囲を照らす光によって周辺環境に好ましくない影響を与えている状況のこと。主な影響としては、居住者、歩行者、交通機関、天体観測といった人間の生活及び諸活動への影響や野生動植物や農作物への影響が挙げられる。

## ふ

### フードマイレージ

食糧(food)の輸送距離(mileage)という意味。輸入食料の総重量と輸送距離を乗じて数値化したもの。生産地から食卓までの距離が短い食べ物を食べることで、輸送に伴って発生する二酸化炭素など温室効果ガスの排出量を少なくして、環境への負荷を小さくする「フード・マイルズ」という考え方に基づく。

### ふんわりアクセル

エコドライブの1つで、燃費を向上させる「やさしい発進」のこと。発進から最初の5秒間で時速20キロに達するくらいの加速が目安とされる。

## ほ

### 歩行者導線経路

歩行者が自然に移動する時に通ると思われる経路のこと。歩行者の移動パターンを予測し、安全で円滑な歩行者空間を確保するために活用される。

## ま

### マイバッグ (my bag)

消費者が買い物用に持参する繰り返し使用できるバッグのこと。エコバッグとも呼ばれる。

## み

### 見える化

目に見えない温室効果ガスをどのように、どれだけ削減するかについては、わかりにくい、実感しにくいといった問題がある。「見える化」は、商品やサービスの製造や利用に伴って排出されるCO<sub>2</sub>などの温室効果ガス排出量を定量的に可視化すること。カーボン・フットプリント\*も見える化の手法の1つである。

## も

### モビリティ・マネジメント

「過度に自動車に頼る状態」から「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に(=かしく)利用する状態」へと少しづつ変えていく一連の取組を意味するものであり、利用者の自発的な行動の変化を促していくコミュニケーションを中心とした交通政策である。

## ゆ

### 有害化学物質

環境を経由して人又は動植物に有害な作用を及ぼす化学物質を指す一般的な総称。具体的には、人の健康又は動植物の生息・生育に被害を生ずるおそれのある物質として大気汚染防止法、水質汚濁防止法、化学物質審査規制法、ダイオキシン類対策特別措置法などで指定されたもの。

### 有機性廃棄物

生ごみを始め、畜産ふん尿、下水汚泥、せん定枝など多様で、全廃棄物の6割を占めるとも言われ、資源化対策が国内で大きな問題となっている。

### ユニバーサルデザイン (universal design)

高齢者や障害のある人の生活や活動に不便となる障害を取り除く「バリアフリー」という考え方を一歩進めて、初めから能力や障害にかかわらず、あらゆる人が利用できるように製品や環境等をデザインしようという考え方。

## り

### 緑地率

緑の量を表す指標の一つで、緑地面積の敷地面積に対する割合のこと。他に、緑被率(緑被面積の敷地面積に対する割合)、緑視率(樹木等の立面投影面積に対する割合)などがある。ただし、これらの具体的な定義は一定ではない。

## れ

### レジ袋

「レジ」はレジスターの略。スーパーやコンビニで買い物をすると、勘定後にレジで渡される商品を入れるためのポリエチレンの袋のこと。

## アルファベット順

### B

#### BOD (Biochemical Oxygen Demand)

生物化学的酸素要求量。河川の汚濁の度合いを示す指標。水中の有機物等の汚濁源となる物質が微生物により無機化されるときに消費される酸素量 (mg/l) で表したものの。数値が大きいほど汚濁が進んでいることを示す。

### C

#### CNG車 (Compressed Natural Gas)

圧縮天然ガスを燃料とした低公害の自動車のこと。NO<sub>x</sub>の排出量が極めて少なく、黒煙などは全く排出されず、出力、トルクなどの動力性能もディーゼル車とほぼ同等の力量。さらに、低振動、低騒音などのメリットがある。

#### CSR (Corporate Social Responsibility)

「企業の社会的責任」と訳され、企業は環境や社会問題などに対して倫理的な責任を果たすべきであるとする考え方。この考え方に基づいて、環境、労働、安全衛生、社会貢献などに関する情報や、事業活動に伴う環境負荷などを幅広く公開するためまとめた報告書をCSR報告書という。

### E

#### EV車 (Electric Vehicle)

電気エネルギーで走る自動車。走行中に排気ガスを出さず、CO<sub>2</sub>排出量や騒音も少ない。

### H

#### HV車 (Hybrid Electric Vehicle)

ハイブリッド車のこと。低公害を目的として、内燃機関(通常のエンジン)あるいは外燃機関(ガスタービン等)と電気モーターを組み合わせで動かす自動車。内燃機関及び外燃機関は一定の回転で運転することが最も効率が良いため、それで発電し、バッテリーに蓄えた電力で電気モーターを回すといった仕組みが用いられる。

### I

#### IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change)

気候変動に関する政府間パネルのこと。国際的な専門家で作る、地球温暖化についての科学的な研究の収集、整理のための政府間機構。学術的な機関であり、地球温暖化に関する最新の知見の評価を行い、対策技術や政策の実現性やその効果、それが無い場合の被害想定結果などに関する科学的知見の評価を提供している。数年おきに発行される「評価報告書」(Assessment Report)は地球温暖化に関する世界中の数千人の専門家の科学的知見を集約した報告書であり、国際政治及び各国の政策に強い影響を与えつつある。

### N

#### NPO (非営利団体) (Non-Profit Organization)

利潤を上げることがを目的としない公共的な活動を行う市民活動団体。特定非営利活動促進法(NPO法)に基づいて法人格を取得した団体をNPO法人という。

#### <表紙写真について>

「田原茶畑」「朱雀門」「ならまち」の写真は、奈良市観光協会提供です。